

令和元年度亀岡市支えあいまちづくり協働支援金申請事業概要一覧

NO	対象事業	申請団体名	代表者名	申請事業名	実施場所	実施期間	設定課題(地域課題)	事業内容	目標	総事業費(円)	申請額(円)
1	スタート事業	亀岡寺キャン実行委員会	代表 松本 義啓	寺キャン	神蔵寺 (稗田野町佐伯)	平成31年4月1日～令和2年3月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住人口・賑わい人口の減少や、高齢化・過疎化により、亀岡の文化継承が危うくなる。</li> <li>・亀岡の自然あふれる文化への接触機会も減少する。</li> </ul>	山寺である神蔵寺でのキャンプ＝寺キャン(マルシェ、キャンドルナイト、夜座、寺ヨガ同時開催)を通じて、亀岡の自然の魅力を実感してもらう。マルシェでは、地元産野菜を出品してもらうことにより、地元住民とキャンプ参加者の交流にも繋がる。	現代人が求めている自然環境を亀岡に見出してもらおうと同時に、心のゆとりや家族との時間を提供する事で、亀岡の魅力を伝えながら賑わいを創出していく。	1,155,000	200,000
2	スタート事業	地域共生ピアサロン・シェノン	代表 坂田 三千代	地域共生社会実現に向けた患者のためのピアサロン等運営事業	下矢田町HOPE CAFE、人権福祉センター、亀岡市内、京都市内他	令和元年5月1日～令和2年3月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2人に1人ががんに罹患する時代にあり、医療機関だけでなく地域社会において、当事者同士が支えあうべく、京都府内では複数のピアサロンが活動しているが、亀岡市内では未だ活動がなく、患者や家族等が不安や悩みを「個人」や「家族」だけで抱え込んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアサロンの開設・運営</li> <li>・がん療養支援ネットワーク研修</li> <li>・ピアカウンセラーの養成講座</li> <li>・がん患者・家族と廻る地域共生ピアツアー</li> <li>・地域におけるがん検診の啓発活動</li> <li>・「世界ががんの日」記念シンポジウムの開催</li> </ul>	支えあいの文化が醸成され、患者等の生活の質の向上と療養の選択肢を広げることや、がん療養における亀岡市の資源の活かし方や亀岡の地域共生デザインについて議論する。サロン利用者 50人/年 ピアツアー 1回5組	250,000	200,000
3	スタート事業	丹波亀山郷づくり研究所	代表 森 壹風	亀岡市歴史偉人・伝統行事デジタルアーカイブ構築事業	亀岡市全域	令和元年6月1日～令和2年3月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・亀岡市には光秀以外にも多数の歴史的偉人が存在したが、市民に浸透していない。</li> <li>・市内の後世に残すべき貴重な伝統行事もある。</li> </ul>	スタッフで偉人・伝統行事を取材しデータベース化するとともに、データベースの充実を図るため市民記者の候補者を募集し、セミナーを開催することで記者として育成し、「文化都市＝亀岡市」を発信する。	市民の文化に対する意識を醸成し、亀岡市の文化を「見える化」することで、文化都市のイメージを高めていく。偉人データ15名、行事10行事、市民記者10名育成	230,000	200,000
4	スタート事業	安詳小学校PTA	会長 原田 禎夫	インターネットを活用したPTA情報配信システムの配信	亀岡市篠町、安詳小学校	平成31年4月1日～令和2年3月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年増加する集中豪雨や台風等の気象災害や、不審者情報など、学校と保護者間の緊急時の連絡体制が各学校で課題となっている。</li> <li>・これまでは紙ベースで情報を発信したものの、作業が非効率で負担となっている。</li> <li>・個人情報の関係から、電話番号等の共有が進まず、緊急連絡体制の構築が急務になっている。</li> </ul>	インターネットを通じた情報発信により、迅速かつきめ細やかな情報配信を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAウェブサイト</li> <li>・PTA LINE@</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報配信体制の構築により、緊急連絡網の機能不全を解消する。</li> <li>・インターネットの利用で、役員負担軽減を図り、PTA活動への理解と参加意識を向上させる。</li> </ul> LINE@登録者 650人	279,800	149,000
小計										1,914,800	749,000
5	ステップアップ事業	赤熊・この先4年楽しく暮らそう会(略称:赤熊楽暮会)	会長 日下部 健	音羽川溪流と半国登山道に係る環境整備事業	東本梅町赤熊地内の山地	平成31年4月1日～令和2年3月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半国山の登山ルート沿いにある音羽川溪流が雑木が茂り、魅力的な景色が見えにくくなっている</li> <li>・初めて訪れる登山者は道に迷う危険があり、名所も見落としがちである</li> <li>・地域の魅力ある資源が認知されていない</li> <li>・植林によって、散歩道をさらに魅力的な道として利用できる可能性がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登山口から「音羽の滝」まで、川沿いに生い茂る雑木を切り、美しい景色が見えるようにする。</li> <li>・山頂に向けて、道案内所ポイントの看板設置</li> <li>・登山口の約400メートルにもみじの苗木を植える</li> </ul>	登山道を整備により、亀岡市外域からもより多くの登山客に足を運んでもらう。将来的には、『モミジの散歩道』を実現し、地元住民が気軽に歩き、健康増進にも図れるようにする。	200,000	150,000
6	ステップアップ事業	一般社団法人育ちとつながりの家 ちとせ	代表 石田 千穂	困っている人この指とまれ♪	育ちとつながりの家ちとせ	平成31年4月1日～令和2年3月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域コミュニティの希薄化が進むことで、子育てで孤立化している。育てにくさを抱える保護者が特に社会から孤立しやすく、行政等にも相談できずに適切な支援を受けることができない家庭もある。</li> </ul>	同じようなしんどさを抱える親同士がつながりあい、本音を打ち明け、また、問題解決や行政・NPOの支援に繋ぐなどの適切な対応ができる場として、勉強会と交流会を年4回開催する。	子育ての中で孤立しがちな親子を支援し、自立を目指す。参加者同士のつながりづくりや交流を促す。	240,000	180,000

令和元年度亀岡市支えあいまちづくり協働支援金申請事業概要一覧

NO	対象事業	申請団体名	代表者名	申請事業名	実施場所	実施期間	設定課題(地域課題)	事業内容	目標	総事業費(円)	申請額(円)
7	ステップアップ事業	大井町文化振興会	会長 松山 一男	第3回大井町文化発表会	亀岡市立大井小学校及び大井町全域	平成31年4月30日 ～ 令和2年3月31日	・今後、さらに高齢化が進み、高齢者世帯・高齢者であり一人暮らしの世帯が増加すると予想される。住民同士で見守り支えあっていけるまちづくりが必要である。 ・健康な高齢者はスポーツを楽しんでいるが、体調面に不安がある高齢者も多数いる。	文化面の活動と交流を盛んにするため、第3回大井町文化発表会を開催する、全世代の住民の交流が図れるよう、チラシの全戸配布等、幅広い手段で広報を行っていく。	・文化交流を通して繋がりが支えあう、暖かな優しいまちを目指す。 ・発表会における舞台、展示発表参加者200人 ・町内の文化活動の輪を広げ、その情報を発信する	250,000	120,000
									小計	690,000	450,000
8	市民連携事業	特定非営利活動法人アシストふれあいハート(連携先) 特定非営利活動法人ウエルス	理事長 坂本 辰之	子育てひろば「まな」	NPO法人アシストふれあいハート 児童発達支援事業所「くくあ」、第三放課後等デイサービスふれあいハート、ガレリアかめおか	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	・核家族化、保育の待機児童、ワンオペ育児で子育て世代の孤立化、負担増などの困難への対処が遅れている。 ・発達障がいの特徴は、社会的認知度が高いといえず、マイナスイメージの払拭が課題であり、誰もが気楽に専門家に育児相談できる場所が地域に根付いていく必要がある。 ・世代を超えた交流の機会や、福祉事業所同士の連携も求められる。	・亀岡市在住の0歳から就学までの乳幼児とその保護者を対象とした子育てひろば「まな」の実施(週1回)する ・連携先法人との協力の下、新たな活動内容として「世代間交流」として、高齢者による「昔懐かしい遊び」などを盛り込む。 ・「夏フェスタ(仮)」を子育てに関する各世代間、福祉事業所間の交流を目的としたイベントとして実施し、広く亀岡市民にも楽しんでもらう。	交流が増す中で、あらゆる保護者が楽しく有意義な育児を行い、あらゆる子供が豊かに発達する社会を目指す。 ・子育てひろば 参加者966人 ・夏のフェスタ 300人	540,000	400,000
9	市民連携事業	特定非営利活動法人プロジェクト保津川(連携先) 特定非営利活動法人亀岡子育てネットワーク	代表理事 原田 貞夫	子どもの未来を守ろう～親子で考えるかめおかプラスチックごみゼロ宣言	亀岡市ゆりかご広場、ふらっとHOUSE	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	・保津川の水環境保全が喫急の課題であり、支流も含めてプラスチックごみの大量漂着が続いている。 ・昨年12月に「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」が発表されたが、認知度は高くなく戸惑いもある。 ・プラスチックごみの削減が急務であり、「ごみゼロ宣言」の趣旨を広め、意識と習慣を改める必要がある。	子育て世代を対象に、保護者及び親子向けの講座等を開催し、海洋プラスチック汚染の現状を知り、「ごみゼロ宣言」の周知と、ごみの削減方法を学ぶ。 ・講座(1回) ・ワークショップ(2回) ・シンポジウム(1回)	プラスチックによる汚染の現状について理解し、「ごみゼロ宣言」が周知され、マイバッグ持参率100%実現への寄与を目指す。 ・講座及びワークショップ参加者 150組/3回 ・シンポジウム70人	963,334	400,000
									小計	1,503,334	800,000
									合計	4,108,134	1,999,000